

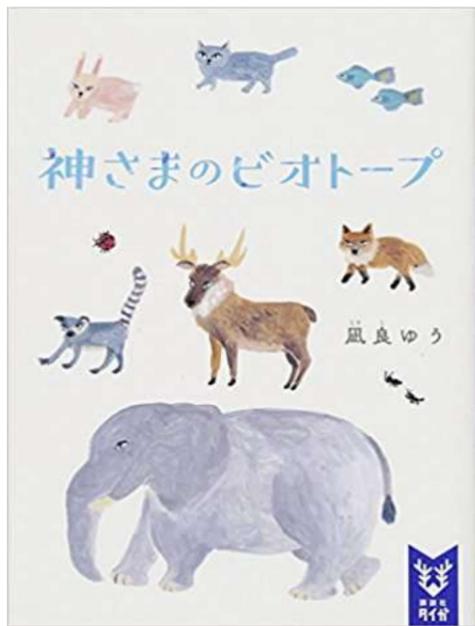
TEEN's BOOK LETTER

from Sakyo & Iwakura Library

「去年今年(こぞことし) 貫く棒の 如きもの」 高浜虚子
新しい年が始まりました！

過ぎて行った2017年、どんな年でしたか？ぴかぴかの2018年、どんな年にしたいですか？
昨日までの毎日で、君たちの全ては創られています。昨日までの食べ物やおしゃべりや運動や、もちろん読書も。
今年も図書館の本でこころの栄養をたくさん摂ってくださいね！

図書館司書の「この1冊」



「神さまのビオトープ」
風良 ゆう／著
講談社(講談社タイガ)

◆ おすすめコメント ◆

「ビオトープbiotope」とは、「動物や植物が恒常的に生活できるように造成または復元された小規模な生活空間」のこと。私たちが暮らす世界は、神さまにとっては小さな、実験的な、ビオトープみたいなものなのかもしれません。突然の事故で死んでしまった夫「鹿野くん」と、普段通りの生活を続けるうる波。他の人に彼の姿は見えないので、うる波は「変な人」と思われて同情されたり、憐まれたり。自分の幸せが何か知っていて、それが在って、誰にも迷惑を掛けていない小さな世界は完成しているのに、世の中はそれを壊そうとします。彼女と、世界が決めた「正しさ」から置き去りにされた人々が描かれます。婚約者の死の秘密を抱えた大学生、機械が親友の少年、秘めた恋人たち…。

何が正しくて、何が間違っているのか。ひとつの物差ししか持たない人生はとても窮屈なものだと思います。ほんの少し、視野を広くするためにも読んで欲しい本です。 <千>

ここで使用している画像はすべて出版社の許可を得て掲載しています。使用・転載はしないでください。

卒業

『卒業するわたしたち』
加藤千恵／著 小学館

「卒業」という言葉は、「学校の全課程を終えること」の他に、「ある時期や段階を通り過ぎること」という意味も持っています。この本には、学校の卒業だけでなく、「人との関係」や「もの」からの卒業も描かれています。1編が短く読みやすいので、本が苦手な人にもオススメです。
著者は歌人でもある加藤千恵さん。物語の冒頭に添えられた短歌が、登場人物の心情や場面を予感させてくれます。



「僕は上手にしゃべれない」
椎野直弥／著
ポプラ社

吃音の悩みをかかえた悠太は、入学式の日、自己紹介を免れるため仮病を使って保健室に逃げ込みます。部活動誘いのチラシに惹かれ、自分を変えたいと放送部に入部。先輩や級友に助けられながらも揺れ動く少年の心。私たちが当たり前だと考えている「普通」が、どれほど他の人を傷つけているのか、そんな私たちの常識の枠からの「卒業」もこの本は教えてくれています。

中学2年生の春、友人・春来から「唯一、彼女の名前を呼べる特別な権利」をプレゼントされた赤音。しかし二人の友情は、学校の中心的存在・舞に引き裂かれてしまいます。孤独な日々を送る赤音、彼女をめぐる少女達の思惑が複雑に絡み合い…。特別な「名前」、特別な「友達」、特別な「季節」。息苦しくも輝かしい中学時代。その濃密な人間関係からの卒業を描くミステリです。



「春待ちの姫君たち」
友桐 夏／著
東京創元社
(創元推理文庫)



「怪物はささやく」
シヴォーン・ダウド／原案, パトリック・ネス／著, 池田 真紀子／訳
, ジム・ケイ／イラストレーション あすなろ書房

コナーは13歳。父親はいない。母親は重い病気にかかっている。周囲は彼を、腫れ物に触るように扱う。そんなある夜、怪物が現れた。それはイチイの木を姿をしていた。怪物が3つの物語を語り終えたら、少年が4つめの物語を話さなくてはならないという…。少年の「孤独からの卒業」を描く、嘘と真実、そして喪失と浄化の物語です。イラストと、そのイラストを活かした造本も美しい本です。映画化もされました。

京都市左京図書館
住所 〒606-8103 京都市左京区高野西開町5

電話番号 075-722-4032
開館時間 平日 午前9時30分～午後7時30分
土・日・祝日 午前9時30分～午後5時

京都市岩倉図書館
住所 〒606-0013 京都市左京区岩倉下在地町16

電話番号 075-702-8510
開館時間 月曜・木曜：午前9時30分～午後7時
水曜・金曜・土曜・日曜・祝日：午前9時

休館日 毎週火曜日(火曜日が祝日の時はその翌平日) 年末・年始(12月29日～1月4日)